

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

2008年6月30日に終了しました2009年3月期第1四半期連結累計期間の連結業績は次のとおりです。

当社グループの業績に影響を与えるエレクトロニクス市場においては、特に薄型テレビ、ゲーム機、ノート型パーソナルコンピュータ、ハードディスクドライブ(以下、HDD)、及び携帯電話の生産が前年同期に比べて増加したものの、先進国を中心にこれら製品の高機能機種需要が鈍化しております。これら高機能機種が電子部品の需要を牽引していたため、電子部品の需要も低迷しました。さらに、電子部品の需給環境が悪化したことにより価格下落が進みました。

このような事業環境のなか、当社グループの連結業績は、売上高 1,906 億 23 百万円(前年同期 2,066 億 99 百万円、前年同期比 7.8%減)、営業利益 53 億 93 百万円(前年同期 161 億 29 百万円、前年同期比 66.6%減)、税引前四半期純利益 55 億 77 百万円(前年同期 201 億 81 百万円、前年同期比 72.4%減)、四半期純利益 44 億 46 百万円(前年同期 160 億 22 百万円、前年同期比 72.3%減)、1株当たり四半期純利益金額 34 円 48 銭(前年同期 122 円 7 銭)となりました。

当第1四半期における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、104 円 56 銭及び 163 円 44 銭と前年同期に比べそれぞれ 13.5%の円高、0.4%の円安となりました。この為替変動による影響額は、売上高で約 215 億円、営業利益で約 66 億円のそれぞれ減少となりました。

(単位:百万円,%)

科目	期	前第1四半期 (2007.4.1～2007.6.30)		当第1四半期 (2008.4.1～2008.6.30)		増減	
		金額	売上高比	金額	売上高比	金額	増減率
売上高		206,699	100.0	190,623	100.0	16,076	7.8
営業利益		16,129	7.8	5,393	2.8	10,736	66.6
税引前四半期純利益		20,181	9.8	5,577	2.9	14,604	72.4
四半期純利益		16,022	7.8	4,446	2.3	11,576	72.3
1株当たり四半期純利益金額:							
- 基本		122 円 07 銭		34 円 48 銭			
- 希薄化後		121 円 90 銭		34 円 46 銭			
期中平均為替レート							
対米ドル		120 円 82 銭		104 円 56 銭			
対ユーロ		162 円 75 銭		163 円 44 銭			

< 製品別売上高の概況 >

(単位: 百万円, %)

製品	前第 1 四半期 (2007.4.1 ~ 2007.6.30)		当第 1 四半期 (2008.4.1 ~ 2008.6.30)		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
電子材料	49,703	24.0	45,671	24.0	4,032	8.1
電子デバイス	49,981	24.2	48,675	25.5	1,306	2.6
記録デバイス	70,416	34.1	72,445	38.0	2,029	2.9
その他	36,599	17.7	23,832	12.5	12,767	34.9
売上高合計	206,699	100.0	190,623	100.0	16,076	7.8
海外売上高(内数)	167,756	81.2	158,158	83.0	9,598	5.7

当社の売上高は(1)電子材料 (2)電子デバイス (3)記録デバイス (4)その他 の4つの製品区分で構成されます。2007年8月にTDKブランド記録メディア販売事業を譲渡したことにより、記録メディア製品の売上高が大きく減少しました。この結果、当第1四半期における記録メディア製品の売上構成比は10%未満となったため、記録メディア製品の売上高については「その他」に含めて開示しております。売上概況を製品区分別にみますと、次のとおりです。

(1)電子材料

当製品区分は「コンデンサ」、「フェライトコア及びマグネット」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、456億71百万円(前年同期497億3百万円、前年同期比8.1%減)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前年同期比で減少しました。主要品目である積層セラミックチップコンデンサは、特にパーソナルコンピュータ(以下、PC)、薄型テレビ、ゲーム機向けで価格下落の影響、及び米ドルに対する円高の影響を受けたことが減収の要因です。

「フェライトコア及びマグネット」:売上高は前年同期比で微増でした。マグネットの増収が、フェライトコアの減収を補いました。

(2)電子デバイス

当製品区分は「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」及び「その他」の3つで構成されます。

当製品区分の売上高は、486億75百万円(前年同期499億81百万円、前年同期比2.6%減)となりました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前年同期比で横ばいでした。薄型テレビ向け電源系コイル、自動車市場にてコモンモードフィルタの販売が各々増加したことにより、チップピースの減収を補いました。

「高周波部品」:売上高は前年同期比で増加しました。PC向けの販売が増加したことが主な要因です。

「その他」:売上高は前年同期比で減少しました。センサ・アクチュエータの増収が、一部製品の終息による電源製品の減収を補うことができませんでした。

(3)記録デバイス

当製品区分は「HDD用ヘッド」、「その他」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、724億45百万円(前年同期704億16百万円、前年同期比2.9%増)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前年同期で減少しました。HDDの生産台数が増加していることに伴い、HDD用ヘッドの需要も増加しています。したがってHDD用ヘッドの販売数量も増加しましたが、価格下落の影響と米ドルに対する円高の影響を受け売上高が減少しました。

「その他」:売上高は前年同期比で増加しました。2007年11月に子会社化したHDD用サスペンション事業の売上高が、当期から寄与したことが主な要因です。

(4)その他

当製品区分は、上記3製品区分を除くすべての製品から構成されています。代表的な製品は<記録メディア>、<電波暗室>、<メカトロニクス(製造設備)>及び<エナジーデバイス(二次電池)>です。

当製品区分の売上高は、238億32百万円(前年同期365億99百万円、前年同期比34.9%減)となりました。

電波暗室、エナジーデバイス及びその他新製品も前年同期比で増収でしたが、記録メディアが減収でした。

<地域別売上高の概況> 詳細については10ページのセグメント情報をご参照ください。

「日本」の売上高は減少しました。4製品区分すべての売上高が減少しました。

「米州」の売上高は減少しました。記録デバイスを除く3製品区分の売上高が各々減少しました。

「欧州」の売上高は減少しました。記録デバイスとその他の売上高が各々減少しました。

「アジア他」の売上高は減少しました。電子材料と記録デバイスの売上高が各々減少しました。

この結果、海外売上高の合計は、前年同期の1,677億56百万円から5.7%減の1,581億58百万円となり、連結売上高に対する海外売上高の比率は、前年同期の81.2%から1.8ポイント増加し83.0%となりました。